

理容科 2026年度生  
授業計画書（シラバス）

学校法人 北光学園  
北海道理容美容専門学校

<b>授業科目</b>	関係法規・制度		
<b>授業時数</b>	30時間	<b>担当教員</b>	宮上 禎肇
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義
<b>学習目標</b>	理容の業務に関する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度についての知識を習得する。		
<b>成績評価方法</b>	筆記試験の成績で評価する。		
<b>使用教科書等</b>	「関係法規・制度」、「理容師関係法令集」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授 業 内 容
1 年 次 前 期	10	1章 法制度の概要 2章 衛生行政の概要 3章 理容師法・美容師法 1～3節
1 年 次 後 期	5	3章 理容師法・美容師法 4～7節 4章 関連法規
2 年 次 前 期	8	まとめ
2 年 次 後 期	7	まとめ

<b>授業科目</b>	衛生管理		
<b>授業時数</b>	90時間	<b>担当教員</b>	原井 信幸、高橋 ゆきえ、富野 龍平
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義
<b>学習目標</b>	①公衆衛生全般についての知識、特に理容業務に関連する感染症予防や環境衛生の保持についての知識を習得する。 ②消毒の意義や、実際に使用する器具の消毒法についての知識を習得する。		
<b>成績評価方法</b>	筆記試験の成績で評価する。		
<b>使用教科書等</b>	「衛生管理」(日本理容美容教育センター発行)		

### ■授業計画

学期	時数	授 業 内 容
1 年 次 前 期	29	1 編 公衆衛生 1 章 公衆衛生の概要 2 章 保健 2 編 環境衛生 1 章 環境衛生 3 編 感染症 1 章 感染症の総論  まとめ 2 章 感染症の各論
1 年 次 後 期	16	4 編 衛生管理技術 1 章 消毒法総論 2 章 消毒法各論 3 章 消毒法実習  5 編 衛生管理の実践例
2 年 次 前 期	20	まとめ
2 年 次 後 期	25	まとめ

授業科目	保健		
授業時数	90時間	担当教員	原井 信幸、森川 友麻、村越 祐式
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義
学習目標	理容の業務を安全かつ効果的に行うために、人体組織、皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する知識を習得する。		
成績評価方法	筆記試験の成績で評価する。		
使用教科書等	「保健」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	29	1編 人体の構造及び機能 1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 2章 骨格器系 3章 筋系 4章 神経系 5章 感覚器系 6章 血液と免疫系 7章 循環器系 8章 呼吸器系 9章 消化器系 2編 皮膚科学 1章 皮膚の構造
1年次後期	16	2編 皮膚科学 1章 皮膚の構造 2章 皮膚付属器官の構造 3章 皮膚の循環器系と神経系 4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 5章 皮膚と皮膚付属器官の保健 6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患
2年次前期	20	まとめ
2年次後期	25	まとめ

<b>授業科目</b>	化粧品化学		
<b>授業時数</b>	60時間	<b>担当教員</b>	須藤 愛弓、村越 祐式
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義
<b>学習目標</b>	化粧品を適正に取り扱うために必要な知識を習得する。		
<b>成績評価方法</b>	筆記試験の成績で評価する。		
<b>使用教科書等</b>	「化粧品化学」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授 業 内 容
1 年 次 前 期	16	第1編 化粧品総論 1章 化粧品総論 2章 化粧品を使用する際に気をつけるべきこと 3章 化粧品の成り立ち
1 年 次 後 期	14	第2編 化粧品各論 1章 スキンケア製品 2章 メイクアップ製品 3章 ヘアケアヘアメイクアップ及びスカルプ製品
2 年 次 前 期	15	まとめ
2 年 次 後 期	15	まとめ

<b>授業科目</b>	文化論		
<b>授業時数</b>	60時間	<b>担当教員</b>	高橋 ゆきえ、森川 友麻
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義
<b>学習目標</b>	デザインや色彩、服飾の変遷について学び、理容師に必要な美的感覚と表現力を身につける。		
<b>成績評価方法</b>	筆記試験の成績で評価する。		
<b>使用教科書等</b>	「文化論」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授 業 内 容
1 年 次 前 期	16	1章 総論 2章 日本の理容業・美容業の歴史 3章 ファッション文化史 日本編
1 年 次 後 期	14	4章 ファッション文化史（西洋編） 5章 礼装の種類 まとめ
2 年 次 前 期	14	まとめ
2 年 次 後 期	16	まとめ

<b>授業科目</b>	運営管理		
<b>授業時数</b>	30時間	<b>担当教員</b>	原井 信幸、村越 祐弼、富野 龍平
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義
<b>学習目標</b>	サロン経営、運営に必要なマーケティング理論、労務管理に関する知識を習得する。		
<b>成績評価方法</b>	筆記試験の成績で評価する。		
<b>使用教科書等</b>	「運営管理」(日本理容美容教育センター発行)		

### ■授業計画

学期	時数	授 業 内 容
1 年 次 前 期	11	1編 経営者の視点 2編 人という資源 従業員としての視点
1 年 次 後 期	4	2編 人という資源 従業員としての視点 3編 顧客のために
2 年 次 前 期	7	まとめ
2 年 次 後 期	8	まとめ

授業科目	理容技術理論			※実務経験のある教員による授業
授業時数	150時間	担当教員	原井 信幸、高橋 ゆきえ、須藤 愛弓、 森川 友麻、村越 祐式、富野 龍平	
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義	
実務経験のある教員による授業の内容	実務経験（理容室勤務）のある教員がその経験を活かし、理容に関する基礎知識、技術及び理容器具の使用方法を教育する。			
学習目標	①理容器具の種類や目的を理解し、その正しい取扱方法を身につける。 ②理容技術を効率的に行うための基礎知識を習得する。			
成績評価方法	学期末試験の成績で評価する。			
使用教科書等	「理容技術理論1」、「理容技術理論2」（日本理容美容教育センター発行）			

#### ■授業計画

学期	時数	授 業 内 容	
1年次前期	39	序章 1章 理容技術の基礎 2章 理容用具 4章 ヘアカットイング 6章 パーマネントセット	8章 シェービング 11章 シャンプーイング&リンシング 12章 理容マッサージ
1年次後期	36	3章 ヘアデザイン 5章 ヘアセッティング 7章 ヘアカラーリング 10章 理容クリニック	9章 理容エステティック 13章 ヘアトリートメント 14章 スカルプトリートメント
2年次前期	35	まとめ	
2年次後期	40	まとめ	

授業科目	理容実習			※実務経験のある教員による授業
授業時数	948時間	担当教員	原井 信幸、高橋 ゆきえ、須藤 愛弓、 森川 友麻、村越 祐式、富野 龍平	
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	実習	
実務経験のある教員による授業の内容	実務経験（理容室勤務）のある教員がその経験を活かし、理容に関する基本技術、応用技術を教育する。			
学習目標	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を身につける。			
成績評価方法	実技試験の成績で評価する。			
使用教科書等	「理容実習1」、「理容実習2」（日本理容美容教育センター発行）			

#### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	232	1章 スタンダードヘア 4章 パーマネントウエービング 6章 ヘアカラーリング 7章 シェービング 10章 ヘアクリニック 11章 シャンプーイング&リンシング 12章 ヘッドマッサージ
1年次後期	242	2章 デザインヘア 3章 ヘアセッティング 5章 アイアニング 8章 ハンドケア 9章 フットケア 13章 クリニックマッサージ
2年次前期	250	まとめ
2年次後期	224	まとめ

<b>授業科目</b>	サロン実務学			※実務経験のある教員による授業
<b>授業時数</b>	600時間	<b>担当教員</b>	原井 信幸、高橋 ゆきえ、須藤 愛弓、森川 友麻、村越 祐武、 富野 龍平、小島 忍、菅原 由美、萬徳 菜津美、難波 麻美、 青山 志穂、小崎 由希子、木村 香織、坂下 智也、岩瀬 光子、 服部 梓、福田 莉美、伊藤 妃菜、佐藤 さくら、畠山 加代子、 山邊 雅映、今野 隆童、菖蒲 千愛	
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	実習	
<b>実務経験のある教員による授業の内容</b>	実務経験（理容室勤務等）のある教員がその経験を活かし、理容実務に関する専門的な技術や知識を教育する。			
<b>学習目標</b>	①必修課目「実習」において習得した基本的技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につける。 ②国家試験に向けての基礎学力、技術を身につける。 ③選択授業において、より実践的な知識と技術を身につける。			
<b>成績評価方法</b>	・1年次前期、2年次後期…実技試験の成績で評価する。 ・1年次後期、2年次前期…実技試験の成績と選択授業の出席率で評価する。			
<b>使用教科書等</b>	「理容技術理論1」、「理容技術理論2」（日本理容美容教育センター発行）			

## ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	145	メンズネイルケア スタイリング オープン講座
1年次後期	155	スタイリング 選択授業
2年次前期	158	スタイリング 国家試験対策 まとめ
2年次後期	142	国家試験対策 まとめ

<b>授業科目</b>	コミュニケーション学			※実務経験のある教員による授業
<b>授業時数</b>	30時間	<b>担当教員</b>	原井 信幸、高橋 ゆきえ、須藤 愛弓、森川 友麻、村越 祐弼、 富野 龍平、小島 忍、菅原 由美、萬徳 菜津美、難波 麻美、 青山 志穂、小崎 由希子、木村 香織、坂下 智也、岩瀬 光子、 服部 梓、福田 莉美、伊藤 妃菜、佐藤 さくら、畠山 加代子、 山邊 雅映、今野 隆童、菖蒲 千愛	
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義、実習	
<b>実務経験のある教員による授業の内容</b>	実務経験（理容室勤務等）のある教員がその経験を活かし、理容師として必要な接客マナーを教育する。			
<b>学習目標</b>	①社会人として必要な基本的なマナーを身につける。 ②理容師として必要な接客マナー、敬語の使い方などを身につける。 ③サロンワークに必要な発想力、表現力を養う。			
<b>成績評価方法</b>	筆記試験または提出作品の成績で評価する。			
<b>使用教科書等</b>	接客マナー 資料等			

#### ■授業計画

学期	時数	授 業 内 容
1年次前期	7	接客の心構え 接客実践
1年次後期	8	言葉遣い 接客実践
2年次前期	7	サロンにおける接客実践 サロンワークに必要な実践
2年次後期	8	まとめ

美容科 2026年度生  
授業計画書（シラバス）

学校法人 北光学園  
北海道理容美容専門学校

授業科目	関係法規・制度		
授業時数	30時間	担当教員	宮上 禎肇
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義
学習目標	美容の業務に関する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度についての知識を習得する。		
成績評価方法	筆記試験の成績で評価する。		
使用教科書等	「関係法規・制度」、「美容師関係法令集」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1 年次 前期	10	1章 法制度の概要 2章 衛生行政の概要 3章 理容師法・美容師法 1～3節
1 年次 後期	5	3章 理容師法・美容師法 4～7節 4章 関連法規
2 年次 前期	8	まとめ
2 年次 後期	7	まとめ

授業科目	衛生管理		
授業時数	90時間	担当教員	青山 志穂、小崎 由希子、服部 梓、 島山 加代子
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義
学習目標	①公衆衛生全般についての知識、特に美容業務に関連する感染症予防や環境衛生の保持についての知識を習得する。 ②消毒の意義や、実際に使用する器具の消毒法についての知識を習得する。		
成績評価方法	筆記試験の成績で評価する。		
使用教科書等	「衛生管理」 (日本理容美容教育センター発行)		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	29	1編 公衆衛生 1章 公衆衛生の概要 2章 保健 2編 環境衛生 1章 環境衛生 3編 感染症 1章 感染症の総論  まとめ 2章 感染症の各論
1年次後期	16	4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論 2章 消毒法各論 3章 消毒法実習  5編 衛生管理の実践例
2年次前期	20	まとめ
2年次後期	25	まとめ

授業科目	保健		
授業時数	90時間	担当教員	難波 麻美、小崎 由希子、坂下 智也
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義
学習目標	美容の業務を安全かつ効果的に行うために、人体組織、皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する知識を習得する。		
成績評価方法	筆記試験の成績で評価する。		
使用教科書等	「保健」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	29	1編 人体の構造及び機能 1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 2章 骨格器系 3章 筋系 4章 神経系 5章 感覚器系 6章 血液と免疫系 7章 循環器系 8章 呼吸器系 9章 消化器系 2編 皮膚科学 1章 皮膚の構造
1年次後期	16	2編 皮膚科学 1章 皮膚の構造 2章 皮膚付属器官の構造 3章 皮膚の循環器系と神経系 4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 5章 皮膚と皮膚付属器官の保健 6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患
2年次前期	20	まとめ
2年次後期	25	まとめ

<b>授業科目</b>	化粧品化学		
<b>授業時数</b>	60時間	<b>担当教員</b>	菅原 由美、萬徳 菜津美、木村 香織
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義
<b>学習目標</b>	化粧品を適正に取り扱うために必要な知識を習得する。		
<b>成績評価方法</b>	筆記試験の成績で評価する。		
<b>使用教科書等</b>	「化粧品化学」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1 年次 前期	16	第1編 化粧品総論 1章 化粧品総論 2章 化粧品を使用する際に気をつけるべきこと 3章 化粧品の成り立ち
1 年次 後期	14	第2編 化粧品各論 1章 スキンケア製品 2章 メイクアップ製品 3章 ヘアケアヘアメイクアップ及びスカルプ製品
2 年次 前期	15	まとめ
2 年次 後期	15	まとめ

授業科目	文化論		
授業時数	60時間	担当教員	菅原 由美、青山 志穂、畠山 加代子、山邊 雅映
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義
学習目標	デザインや色彩、服飾の変遷について学び、美容師に必要な美的感覚と表現力を身につける。		
成績評価方法	筆記試験の成績で評価する。		
使用教科書等	「文化論」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	16	1章 総論 2章 日本の理容業・美容業の歴史 3章 ファッション文化史 日本編
1年次後期	14	4章 ファッション文化史（西洋編） 5章 礼装の種類 まとめ
2年次前期	14	まとめ
2年次後期	16	まとめ

授業科目	運営管理		
授業時数	30時間	担当教員	菅原 由美、坂下 智也、畠山 加代子
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義
学習目標	サロン経営、運営に必要なマーケティング理論、労務管理に関する知識を習得する。		
成績評価方法	筆記試験の成績で評価する。		
使用教科書等	「運営管理」(日本理容美容教育センター発行)		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1 年次 前期	11	1編 経営者の視点 2編 人という資源 従業員としての視点
1 年次 後期	4	2編 人という資源 従業員としての視点 3編 顧客のために
2 年次 前期	7	まとめ
2 年次 後期	8	まとめ

授業科目	美容技術理論			※実務経験のある教員による授業
授業時数	150時間	担当教員	菅原 由美、萬徳 菜津美、難波 麻美、青山 志穂、小崎 由希子、 木村 香織、坂下 智也、岩瀬 光子、服部 梓、福田 莉美、 畠山 加代子、山邊 雅映、今野 隆童	
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義	
実務経験のある教員による授業の内容	実務経験（美容室勤務）のある教員がその経験を活かし、美容に関する基礎知識、技術及び美容器具の使用方法等を教育する。			
学習目標	①美容器具の種類や目的を理解し、その正しい取扱方法を身につける。 ②美容技術を効率的に行うための基礎知識を習得する。			
成績評価方法	学期末試験の成績で評価する。			
使用教科書等	「美容技術理論1」、「美容技術理論2」（日本理容美容教育センター発行）			

#### ■授業計画

学期	時数	授業内容	
1年次前期	39	序章 1章 美容用具 2章 シャンプーイング 3章 ヘアデザイン 4章 ヘアカットイング	8章 エステティック 9章 ネイル技術
1年次後期	36	5章 パーマネントウェービング 6章 ヘアセッティング 7章 ヘアカラーリング	10章 メイクアップ 11章 日本髪 12章 着付けの理論と技術
2年次前期	35	まとめ	
2年次後期	40	まとめ	

授業科目	美容実習			※実務経験のある教員による授業
授業時数	948時間	担当教員	菅原 由美、萬徳 菜津美、難波 麻美、青山 志穂、小崎 由希子、 木村 香織、坂下 智也、岩瀬 光子、服部 梓、福田 莉美、 畠山 加代子、山邊 雅映、今野 隆童	
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	実習	
実務経験のある教員による授業の内容	実務経験（美容室勤務）のある教員がその経験を活かし、美容に関する基本技術、応用技術を教育する。			
学習目標	美容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な美容技術を身につける。			
成績評価方法	実技試験の成績で評価する。			
使用教科書等	「美容実習1」、「美容実習2」（日本理容美容教育センター発行）			

#### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	232	1章 シャンプーイング 2章 ヘアカットイング 3章 パーマネントウエービング 6章 エステティック 7章 ネイル技術 9章 着付け技術
1年次後期	242	1章 シャンプーイング 2章 ヘアカットイング 3章 パーマネントウエービング 4章 ヘアセットイング 5章 ヘアカラーリング 8章 メイクアップ
2年次前期	250	まとめ
2年次後期	224	まとめ

<b>授業科目</b>	サロン実務学			※実務経験のある教員による授業
<b>授業時数</b>	600時間	<b>担当教員</b>	菅原 由美、萬徳 菜津美、難波 麻美、青山 志穂、 小崎 由希子、木村 香織、坂下 智也、岩瀬 光子、服部 梓、 福田 莉美、伊藤 妃菜、佐藤 さくら、畠山 加代子、 山邊 雅映、今野 隆童、菖蒲 千愛、原井 信幸、高橋 ゆきえ、 須藤 愛弓、森川 友麻、村越 祐式、富野 龍平、小島 忍	
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	実習	
<b>実務経験のある教員による授業の内容</b>	実務経験（美容室勤務等）のある教員がその経験を活かし、美容実務に関する専門的な技術や知識を教育する。			
<b>学習目標</b>	①必修課目「実習」において習得した基本的技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につける。 ②国家試験に向けての基礎学力、技術を身につける。 ③選択授業において、より実践的な知識と技術を身につける。			
<b>成績評価方法</b>	・1年次前期、2年次後期…実技試験の成績で評価する。 ・1年次後期、2年次前期…実技試験の成績と選択授業の出席率で評価する。			
<b>使用教科書等</b>	「美容技術理論1」、「美容技術理論2」（日本理容美容教育センター発行）			

## ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	145	スタイリング
1年次後期	155	スタイリング 選択授業
2年次前期	158	スタイリング 国家試験対策 まとめ
2年次後期	142	国家試験対策 まとめ

<b>授業科目</b>	コミュニケーション学		※実務経験のある教員による授業
<b>授業時数</b>	30時間	<b>担当教員</b>	菅原 由美、萬徳 菜津美、難波 麻美、青山 志穂、 小崎 由希子、木村 香織、坂下 智也、岩瀬 光子、服部 梓、 福田 莉美、伊藤 妃菜、佐藤 さくら、畠山 加代子、 山邊 雅映、今野 隆童、菖蒲 千愛、原井 信幸、高橋 ゆきえ、 須藤 愛弓、森川 友麻、村越 祐式、富野 龍平、小島 忍
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義、実習
<b>実務経験のある教員による授業の内容</b>	実務経験（美容室勤務等）のある教員がその経験を活かし、美容師として必要な接客マナーを教育する。		
<b>学習目標</b>	①社会人として必要な基本的なマナーを身につける。 ②美容師として必要な接客マナー、敬語の使い方などを身につける。 ③サロンワークに必要な発想力、表現力を養う。		
<b>成績評価方法</b>	筆記試験または提出作品の成績で評価する。		
<b>使用教科書等</b>	接客マナー 資料等		

#### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	7	接客の心構え 接客実践
1年次後期	8	言葉遣い 接客実践
2年次前期	7	サロンにおける接客実践 サロンワークに必要な実践
2年次後期	8	まとめ

ビューティー&ヘアメイク科 2026年度生  
授業計画書（シラバス）

学校法人 北光学園

北海道理容美容専門学校

授業科目	関係法規・制度		
授業時数	30時間	担当教員	宮上 禎肇
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義
学習目標	美容の業務に関する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度についての知識を習得する。		
成績評価方法	筆記試験の成績で評価する。		
使用教科書等	「関係法規・制度」、「美容師関係法令集」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1 年次 前期	10	1章 法制度の概要 2章 衛生行政の概要 3章 理容師法・美容師法 1～3節
1 年次 後期	5	3章 理容師法・美容師法 4～7節 4章 関連法規
2 年次 前期	8	まとめ
2 年次 後期	7	まとめ

<b>授業科目</b>	衛生管理		
<b>授業時数</b>	90時間	<b>担当教員</b>	青山 志穂、小崎 由希子、服部 梓、 島山 加代子
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義
<b>学習目標</b>	①公衆衛生全般についての知識、特に美容業務に関連する感染症予防や環境衛生の保持についての知識を習得する。 ②消毒の意義や、実際に使用する器具の消毒法についての知識を習得する。		
<b>成績評価方法</b>	筆記試験の成績で評価する。		
<b>使用教科書等</b>	「衛生管理」 (日本理容美容教育センター発行)		

### ■授業計画

学期	時数	授 業 内 容
1 年 次 前 期	29	1編 公衆衛生 1章 公衆衛生の概要 2章 保健 2編 環境衛生 1章 環境衛生 3編 感染症 1章 感染症の総論  まとめ 2章 感染症の各論
1 年 次 後 期	16	4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論 2章 消毒法各論 3章 消毒法実習  5編 衛生管理の実践例
2 年 次 前 期	20	まとめ
2 年 次 後 期	25	まとめ

授業科目	保健		
授業時数	90時間	担当教員	難波 麻美、小崎 由希子、坂下 智也
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義
学習目標	美容の業務を安全かつ効果的に行うために、人体組織、皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する知識を習得する。		
成績評価方法	筆記試験の成績で評価する。		
使用教科書等	「保健」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	29	1編 人体の構造及び機能 1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 2章 骨格器系 3章 筋系 4章 神経系 5章 感覚器系 6章 血液と免疫系 7章 循環器系 8章 呼吸器系 9章 消化器系 2編 皮膚科学 1章 皮膚の構造
1年次後期	16	2編 皮膚科学 1章 皮膚の構造 2章 皮膚付属器官の構造 3章 皮膚の循環器系と神経系 4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 5章 皮膚と皮膚付属器官の保健 6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患
2年次前期	20	まとめ
2年次後期	25	まとめ

<b>授業科目</b>	化粧品化学		
<b>授業時数</b>	60時間	<b>担当教員</b>	菅原 由美、萬徳 菜津美、木村 香織
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義
<b>学習目標</b>	化粧品を適正に取り扱うために必要な知識を習得する。		
<b>成績評価方法</b>	筆記試験の成績で評価する。		
<b>使用教科書等</b>	「化粧品化学」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1 年次 前期	16	第1編 化粧品総論 1章 化粧品総論 2章 化粧品を使用する際に気をつけるべきこと 3章 化粧品の成り立ち
1 年次 後期	14	第2編 化粧品各論 1章 スキンケア製品 2章 メイクアップ製品 3章 ヘアケアヘアメイクアップ及びスカルプ製品
2 年次 前期	15	まとめ
2 年次 後期	15	まとめ

授業科目	文化論		
授業時数	60時間	担当教員	菅原 由美、青山 志穂、畠山 加代子、山邊 雅映
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義
学習目標	デザインや色彩、服飾の変遷について学び、美容師に必要な美的感覚と表現力を身につける。		
成績評価方法	筆記試験の成績で評価する。		
使用教科書等	「文化論」（日本理容美容教育センター発行）		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	16	1章 総論 2章 日本の理容業・美容業の歴史 3章 ファッション文化史 日本編
1年次後期	14	4章 ファッション文化史（西洋編） 5章 礼装の種類 まとめ
2年次前期	14	まとめ
2年次後期	16	まとめ

授業科目	運営管理		
授業時数	30時間	担当教員	菅原 由美、坂下 智也、畠山 加代子
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義
学習目標	サロン経営、運営に必要なマーケティング理論、労務管理に関する知識を習得する。		
成績評価方法	筆記試験の成績で評価する。		
使用教科書等	「運営管理」(日本理容美容教育センター発行)		

### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	11	1編 経営者の視点 2編 人という資源 従業員としての視点
1年次後期	4	2編 人という資源 従業員としての視点 3編 顧客のために
2年次前期	7	まとめ
2年次後期	8	まとめ

授業科目	美容技術理論			※実務経験のある教員による授業
授業時数	150時間	担当教員	菅原 由美、萬徳 菜津美、難波 麻美、青山 志穂、小崎 由希子、 木村 香織、坂下 智也、岩瀬 光子、服部 梓、福田 莉美、 畠山 加代子、山邊 雅映、今野 隆童	
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	講義	
実務経験のある教員による授業の内容	実務経験（美容室勤務）のある教員がその経験を活かし、美容に関する基礎知識、技術及び美容器具の使用方法を教育する。			
学習目標	①美容器具の種類や目的を理解し、その正しい取扱方法を身につける。 ②美容技術を効率的に行うための基礎知識を習得する。			
成績評価方法	学期末試験の成績で評価する。			
使用教科書等	「美容技術理論1」、「美容技術理論2」（日本理容美容教育センター発行）			

#### ■授業計画

学期	時数	授業内容	
1年次前期	39	序章 1章 美容用具 2章 シャンプーイング 3章 ヘアデザイン 4章 ヘアカットイング	8章 エステティック 9章 ネイル技術
1年次後期	36	5章 パーマネントウエービング 6章 ヘアセッティング 7章 ヘアカラーリング	10章 メイクアップ 11章 日本髪 12章 着付けの理論と技術
2年次前期	35	まとめ	
2年次後期	40	まとめ	

授業科目	美容実習			※実務経験のある教員による授業
授業時数	948時間	担当教員	菅原 由美、萬徳 菜津美、難波 麻美、青山 志穂、小崎 由希子、木村 香織、坂下 智也、岩瀬 光子、服部 梓、福田 莉美、畠山 加代子、山邊 雅映、今野 隆童	
履修学年・学期	1、2学年 通年	授業方法	実習	
実務経験のある教員による授業の内容	実務経験（美容室勤務）のある教員がその経験を活かし、美容に関する基本技術、応用技術を教育する。			
学習目標	美容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な美容技術を身につける。			
成績評価方法	実技試験の成績で評価する。			
使用教科書等	「美容実習1」、「美容実習2」（日本理容美容教育センター発行）、本校マニュアル			

#### ■授業計画

学期	時数	授業内容	
1年次前期	232	シャンプーイング ヘアカッティング パーマメントウエービング ネイル技術 メイクアップ	メイクアップテクニック基礎 イメージ別トータルメイクアップ ブロー基礎、応用 アイロン基礎、応用
1年次後期	242	シャンプーイング ヘアカッティング ヘアカラーリング ヘアセッティング	イメージ別トータルメイクアップ ヘアアレンジ フォトシューティング フットケア ヘアメイクアップ作品制作、撮影
2年次前期	250	まとめ	
2年次後期	224	まとめ	

<b>授業科目</b>	サロン実務学			※実務経験のある教員による授業
<b>授業時数</b>	600時間	<b>担当教員</b>	菅原 由美、萬徳 菜津美、難波 麻美、青山 志穂、小崎 由希子、 木村 香織、坂下 智也、岩瀬 光子、服部 梓、 福田 莉美、伊藤 妃菜、佐藤 さくら、畠山 加代子、 山邊 雅映、今野 隆童、葛蒲 千愛、原井 信幸、高橋 ゆきえ、 須藤 愛弓、森川 友麻、村越 祐式、富野 龍平、小島 忍	
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	実習	
<b>実務経験のある教員による授業の内容</b>	実務経験（美容室勤務等）のある教員がその経験を活かし、美容実務に関する専門的な技術や知識を教育する。			
<b>学習目標</b>	①必修課目「実習」において習得した基本的技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につける。 ②国家試験に向けての基礎学力、技術を身につける。 ③選択授業において、より実践的な知識と技術を身につける。			
<b>成績評価方法</b>	・1年次前期、2年次後期…実技試験の成績で評価する。 ・1年次後期、2年次前期…実技試験の成績と選択授業の出席率で評価する。			
<b>使用教科書等</b>	「美容技術理論1」、「美容技術理論2」（日本理容美容教育センター発行）、本校マニュアル			

## ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	145	スタイリング
1年次後期	155	スタイリング 選択授業
2年次前期	158	スタイリング 国家試験対策 まとめ
2年次後期	142	国家試験対策 まとめ

<b>授業科目</b>	コミュニケーション学		※実務経験のある教員による授業
<b>授業時数</b>	30時間	<b>担当教員</b>	菅原 由美、萬徳 菜津美、難波 麻美、青山 志穂、小崎 由希子、 木村 香織、坂下 智也、岩瀬 光子、服部 梓、 福田 莉美、伊藤 妃菜、佐藤 さくら、畠山 加代子、 山邊 雅映、今野 隆童、菖蒲 千愛、原井 信幸、高橋 ゆきえ、 須藤 愛弓、森川 友麻、村越 祐式、富野 龍平、小島 忍
<b>履修学年・学期</b>	1、2学年 通年	<b>授業方法</b>	講義、実習
<b>実務経験のある教員による授業の内容</b>	実務経験（美容室勤務等）のある教員がその経験を活かし、美容師として必要な接客マナーを教育する。		
<b>学習目標</b>	①社会人として必要な基本的なマナーを身につける。 ②美容師として必要な接客マナー、敬語の使い方などを身につける。 ③サロンワークに必要な発想力、表現力を養う。		
<b>成績評価方法</b>	筆記試験または提出作品の成績で評価する。		
<b>使用教科書等</b>	接客マナー 資料等		

#### ■授業計画

学期	時数	授業内容
1年次前期	7	接客の心構え 接客実践
1年次後期	8	言葉遣い 接客実践
2年次前期	7	サロンにおける接客実践 サロンワークに必要な実践
2年次後期	8	まとめ